



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4  
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail :kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

## 目次

### ○センターからのお知らせ

- 「希望研修追加募集講座一覧表更新」・・・・・・・・・・・・・ 1
- 「チャレンジしののめ塾 来場お礼」・・・・・・・・・・・・・ 1
- 「センター研究発表会のお知らせ」・・・・・・・・・・・・・ 2

### ○教科教育部より

- 「日常の生活に生きる道德の授業をしたいんだけど…」・・・・・・・・ 3

## センターからのお知らせ

希望研修追加募集講座一覧表を更新しました。

詳しくはセンターHPの「研修」から

「平成28年度長野県総合教育センター希望研修追加募集講座一覧表（9月5日版）」をご覧ください。

なお、追加募集講座の申し込みは **9月30日を以て締め切り**ます。  
ご希望の方はお早めにお申し込みください。



トモニ先生

### 8月20日（土）「チャレンジしののめ塾」

ご来場ありがとうございました。



塩尻・松本ほか県内各地から470名を超える皆様にご来場いただきました。18の講座を中心に楽しみいただきました。



ミガコ先生

平成28年度

# 長野県総合教育センター 研究発表会のお知らせ

多様化する教育現場の課題に直面している教員を支援する研究調査

平成29年2月17日(金)







総合教育センターが取組んでいる学校教育に関する研究成果の発表により、県内の各学校・教育関係機関等における研究活動の充実、教員の指導力の向上に資することを目的として開催します。  
県内外の小・中・高・特別支援学校の教職員、教育関係機関等の職員の皆様、ぜひ、ご参加ください。

- 会場 長野県総合教育センター 〒399-0711 長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4
- 日程

## 【午前の部】

時間	内容
9:40~9:50	開会行事
9:50~11:40	○講演 「グローバル時代を生き抜くために」 講師：村上 憲郎 氏  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             2003年4月、Google 米国本社 副社長兼 Google Japan 代表取締役社長として Google に入社以来、日本における Google の全業務の責任者を務める。2009年1月名誉会長に就任、2011年1月1日付で退任し、村上憲郎事務所を開設。              株式会社村上憲郎事務所 代表取締役 / 株式会社エナリス 代表取締役社長 / 東京工業大学 学長アドバイザーボード委員 / 大阪工業大学 客員教授 / 会津大学 参与           </div>
11:40~12:40	昼食（センター食堂がご利用いただけます）

## 【午後の部】 各分科会では研究発表をもとに、意見・情報交換や演習をおこないます。

分科会 1			
12:40~ 14:10 (90分)	<b>A 『職場の同僚性を高め 若手の成長を支える 職場づくり』</b> 	<b>B 『不登校への 対応のあり方を 考える』</b> 	<b>C 『学力向上に つながる 授業づくり』</b> 
14:10~14:30	休憩 (20分)		
分科会 2			
14:30~ 16:00 (90分)	<b>D 『個に居場所がある 学級づくり』</b> ~教師が 子どもと共に歩む 学級づくりを通して~ 	<b>E 『アクティブ・ラーニング の視点に立った 授業改善に 向けて』</b> 	<b>F 『ICT機器の 効果的な活用と 反転学習の取組 について』</b> 
16:00~16:10	連絡・アンケート記入		

- 参加費 無料
- 参加申込み <締切り 平成29年2月10日(金)>  
長野県総合教育センターのホームページから申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお申込みください。

長野県総合教育センター 企画調査部  
 (部長) 浅川 桂 (担当) 林 健司  
 TEL 0263-53-8802 FAX 0263-51-1290  
 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

## 日常の生活に生きる道徳の授業をしたいんだけど…



トモニ先生

道徳の授業って難しいな。子どもたちに、望ましいと思われることを答えさせるだけの、道徳的価値の押し付けのような授業になってしまうことが多いんだ。

私もそう。わかりきったことを書かせるだけのような……。



ミガコ先生

うーん、道徳教育で、子どもたちに「つける力」って何だろう。

これからのグローバル化が進展する社会の中では、子どもたちは、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きていくことになるね。



その中で、子どもたちが、「どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか」を考えたとき、道徳教育が大いに関係しそうだよ。



そうだね。すると、道徳の授業では何が大切になるのだろう。  
例えば「きまりを守るのは大事」という道徳的価値の理解もあるけれど、将来、様々な問題場面に出会った時に、状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断ができることが大切だね。そのためには、きまりを守ることについて、自分とのかかわりで考えたり、友だちの多様な考え方、感じ方と出会い、交流し、自分の考えをより明確にしたりする場が必要になりそうだね。



そうか！改訂学習指導要領の「道徳科」で、「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る」とあったのはそういうことなんだ。

つまり、道徳の授業で、そのような学びの場を重ねていくことが、徐々に、子どもたちの道徳性を育むことにつながるんだね。



学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、「どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか」の根幹となるものです。

道徳の授業では、答えが一つではない道徳的な課題について向き合う上で、様々な考えが出るような発問の工夫をしましょう。また、1時間はもちろんですが、学期や年間単位の長期的な視点で子どもの変容を丁寧に捉え、評価につなげていきましょう。即効性を求めるのではなく、少しずつ内面的資質を高めることが大切です。年間35時間の道徳の授業を計画的に行い、記録を蓄積していきましょう。



つなぐ先生